

三次元加速度計を用いた 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の重症度評価

研究分担者: 佐々木 秀直 (北海道大学)

図1 三次元加速度計による歩行解析

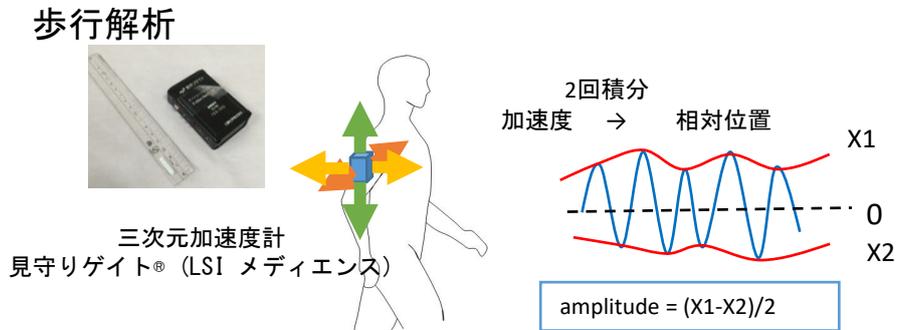
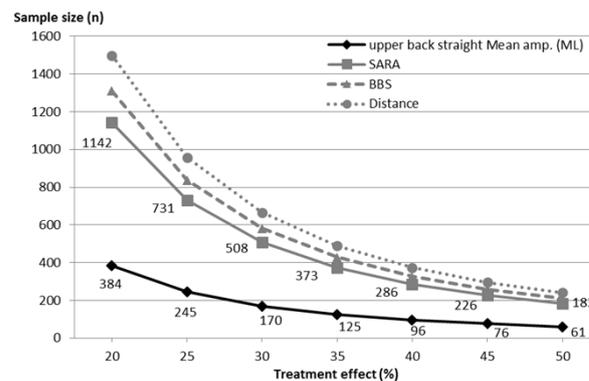


図2 18ヵ月期間における鋭敏性の検証



【目的】

純粋小脳型脊髄小脳変性症および多系統萎縮症において、より鋭敏に重症度を評価することが可能な生理学的バイオマーカーの開発

【成果】

- 18ヵ月間隔であれば歩行解析測定値の方がSARAなどの他の評価よりも鋭敏に重症度を評価できることを明らかにし、Cerebellum誌に掲載された。(図2)
- MSAにおいても重症度スケールに相関することを見出しつつある。現在、3ヶ月間隔で経時評価を継続中である。

2019.12.4